

科目名称：	染色・陶芸演習Ⅲ	
担当者名：	権田 宜子、鶴見 晋史、吉岡 将式、徳田 明美、上端 伸也	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	5
授業の目的・テーマ		
<p>自らの染色や陶芸作品を高めていくには、それを可能にする技術を身につけ知識を得ることに努めることであり、それとともに美意識を高め芸術的な鑑賞眼を養うことである。授業では技術を探求し、準備学習のなかで美術館に足を運びながら数多くの過去・現在の作品に接し、その出会いの感性を卒業制作の構想に生かすことを目的とする。</p> <p>また、身につけた技術や専門知識を、産業界や地域に生かすために何を染色・陶芸で創作できるのかを考える。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>【染色】 着物の構造を理解して柄をデザインし、加賀友禅での糸目技法や数々の作業工程を踏まえながら着物を仕上げる。</p> <p>【陶芸】 これまで学習した中で自分にあった技法を選択し、さらにスケールを上げ作品の構想を練り、独自の表現について探求する。卒業制作は学んできたことの集大成として取り組む。</p> <p>卒業制作にむけた作品については、各回の授業内容を理解し達成しているかを確認する。</p>		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	技術の習熟度 ルーブリック	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)			80	20	100
美術DP(3)					0
美術DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》権田宜子／加賀友禅染色工房（有）千紅	《経験年数1》 8年
	《内容2》上端伸也／ちゃわんやいちだ 虚空蔵窯	《経験年数2》 11年間
	《内容3》吉岡将式／妙泉工房 九谷青窯	《経験年数3》 4年間 6年間
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解	染色・陶芸について良く学び、二年間でよく理解し、表現することができる	染色・陶芸について良く学び、二年前期よりさらに理解することができる	染色・陶芸について良く学び、よく理解することができる	染色・陶芸について学んだが、少しは理解することができる
表現力	様々な道具の表現について、多くの場面で使えるようになった	様々な道具の表現について、理解できたので使っている	様々な道具の表現について、少し理解できる	様々な道具の表現について、良く理解できる
知識	染色・陶芸についての種類や技法を使いながら表現できる	染色・陶芸についての種類や技法を知り、さらに調べて使っている	染色・陶芸についての種類や技法を知り、さらに検索し調べた	染色・陶芸についての種類や技法を知り、他にも学びたいと思う
意欲	染色・陶芸についてさらに追求し、技術を身につけ表現し続けたい	染色・陶芸についてさらに追求し、技術を身につけ表現したい	染色・陶芸について追求し、技術を身につけたい	染色・陶芸は難しいと思う

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週 【染色】・課題①地域に関わる課題を見つけて制作する 【陶芸】・課題①地域に関わる課題を見つけて制作する	・「千代女」の人物像や俳句が作られた時代背景、俳句についても調べておき、課題を発表するための準備をする。	40分
第2週 【染色】・課題②着物制作 図案制作 【陶芸】・課題②自由テーマ 構想を図案に描く	・着物や陶芸の素材や様々な道具について関係書籍を読んで調べておく。	40分
第3週 【染色】・課題②着物制作 図案制作 【陶芸】・課題②作品の構想についてディスカッション	・着物や陶芸作品を鑑賞しその制作テーマを考え、作品の構想をまとめる。	40分
第4週 【染色】・課題②着物制作 図案制作 【陶芸】・課題②陶芸材料を考える	・作業を始めるにあたり、素材や様々な道具について関係書籍を読んでおく。	40分
第5週 【染色】・課題②着物制作 図案を実物大に制作 【陶芸】・課題②粘土と釉薬の焼成見本を作成する	・素材や様々な道具を使ってどのように展開するか焼成見本を制作しておく。	40分
第6週 【染色】・課題②着物制作 図案制作 【陶芸】・課題②焼成見本から制作計画を立てる	・着物の構造を理解し、柄の展開について調べておく。制作計画を立てる。	40分
第7週 【染色】・課題②着物制作 青花で下絵を描き生地に写す 【陶芸】・課題②粘土を成形する	・作業のために様々な工程について関係書籍を読み、下絵の練習をしておく。	40分
第8週 【染色】・課題②着物制作 糊置き 【陶芸】・課題②粘土を成形する	・作業のために様々な工程について関係書籍を読み、糊置きの練習をしておく。	40分
第9週 【染色】・課題②着物制作 糊置き・地入れ 【陶芸】・課題②粘土を成形する	・粘土の成形について詳しく調べておく。	40分
第10週 【染色】・課題②着物制作 彩色 【陶芸】・課題②乾燥・素焼き	・彩色を始めるにあたり、加賀友禅について関係書籍を読んで調べておく。	40分
第11週 【染色】・課題②着物制作 彩色 【陶芸】・課題②乾燥・素焼き	・成形後の乾燥・素焼きについて詳しく調べておく。	40分
第12週 【染色】・課題②着物制作 下蒸し・中埋め 【陶芸】・課題②施釉・加飾を考える	・中埋め技法について詳しく調べておく。	40分
第13週 【染色】・課題②着物制作 中埋め・地入れ 【陶芸】・課題②施釉・加飾を考える	・釉薬・過食技法について詳しく調べておく。	40分
第14週 【染色】・課題②着物制作 地染め・本蒸し・乾燥 【陶芸】・課題②本焼き	・作品を仕上げるにあたり、技法や作業工程について関係書籍を読んで調べておく。	40分
第15週 【染色】・卒展展示の研究・講評会 【陶芸】・卒展展示の研究・講評会	・講評会で自分の作品コンセプトの内容を小レポートとしてまとめておく。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
事前事後学修した課題作品の提出を原則とし、作品評価(80%)、技術の習熟度・ルーブリック(20%)

課題に対してのフィードバック

講評会で学習成果を発表し、そこでディスカッションする。各教員からのコメントシートでフィードバックする

教科書・参考書

【参考書/染色】 染めを学ぶ 京都造形芸術大学 角川書店 4,800円+税
【参考書/陶芸】 陶芸を学ぶ(2) 京都造形芸術大学 角川書店 6,800円+税